

特色ある学校

魅力ある職業教育を目指して

高知県立高知工業高等学校
情報技術科教諭 山崎 貴雄

1. はじめに

「南国土佐」で知られる高知県は、太平洋に面した四国の南に位置し、その暖かい気候から、プロ野球など、冬季には各種スポーツのキャンプが行われている。また、幕末には坂本龍馬などを輩出し、名勝桂浜には龍馬の銅像が太平洋を見下ろす位置に建てられている。

本校は明治45年3月（1912年）、当時の優れた実業家であり政治家であった、竹内綱先生、同明太郎先生父子の、「工業富国基」の信念に基づいて、工業技術者養成のため県下唯一の工業教育機関として創立された。全日制は機械科、電気科、情報技術科、工業化学科、土木科、建築科、インテリア科の7学科、定時制は機械科、電気科、土木科、建築科の4学科および建築科専修コースを有する時代の進歩発展にあった施設設備と教育内容をそなえた、県下で最も伝統のある、工業学校である。

2. 開かれた学校づくり

本県では、「子どもたちが主人公」を合い

言葉に、平成9年度から「土佐の教育改革」をスタートし、「21世紀を心豊かに生き抜いていける子どもたちを育てることのできる教育の確立」を目指し、「子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上」、「教職員の資質・指導力の向上」、「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」を柱とする取り組みが始まった（現在は第2期として発展的に取り組んでいる）。

本校の開かれた学校づくりは、「開かれた学校づくり推進委員会」の立ち上げから始まった。そのメンバー構成は町内会・民生委員・小中学校長・同窓会・保護者・生徒代表・教職員の合計28名である。推進委員会は年2回、6月には年度の取り組みを、3月にはそのまとめを報告している。

主な取り組みとしては、①長期休業中行事として親子木工教室・パソコン開放講座（平成16年度まで）・電子工作教室1（平成17年度より地域の小学生対象）・電子工作教室2（養護学校教職員と保護者対象）、②養護学校



開かれた学校づくり推進委員会



親子木工教室



電子工作教室



技術ボランティア

との技術を通じた交流（技術ボランティア）、
③中学校教員との話し合い、④中学生の体験入学、⑤学校評価アンケートの実施、⑥教員の県内企業体験の実施、⑦全教職員による教育ビジョンの策定（平成17年度）、⑧高知工業高校改革検討委員会を立ち上げ本校のあり方について協議（平成15・16年度）、⑨公開授業の実施などである。

3. 学校評価と授業改善への取り組み

生徒・保護者・教職員対象に「学校評価アンケート」を2001年に実施した。その内容は学校運営、教科指導、生徒指導、進路指導等についてであり、まとめを校内の学校評価検討委員会で行うと同時に、当時東京大学教授の浦野東洋一先生に依頼し、次のような分析・提案をいただいた。

「授業に関する満足度が、教員・生徒ともに過半数を割っている点にこそ、学校改革のエネルギーを見るべき。また一方で、授業の現状に対しては、生徒・教員間に認識のギャップがあり、授業改善に対して、生徒と教員が率直に話し合うことが必要。」

また、同年3月に開かれた「開かれた学校づくり推進委員会」において、生徒会長が「授業検討委員会」立ち上げを要望し、翌年より「授業改善」について教員と生徒と徹底的に話し合いをすることとなった。

①2002年度の取り組み

- ・教員19名、生徒12名との懇談を実施

- ・授業に対する生徒側の要望を聞き取る。
- ・懇談結果を受けて教科会を実施
生徒からの要望を元に論議をする。
- ・教員、生徒との懇談を実施
教員の論議の結果を報告し、意見交換。
- ・「授業改善」のためのアンケートを実施
教員、生徒に対してアンケートを実施。
- ・「授業改善」のための意見交換会
教員、生徒による意見交換会を実施。

意見交換会では、外部よりコーディネーターを招き、事前アンケートについて論議した。外部コーディネーターの進行は、教員指導ではできない本音の討議ができ、お互いの信頼関係を高め、「授業改善」を共に進めていくための出発点となった。

②2003年度の取り組み

- ・「授業改善」検討委員会の発足
教員、生徒代表による検討委員会を発足。
- ・意見集約のためのホーム討議
楽しい授業や個々の授業に対する要望な



意見交換会

どをクラスでまとめた。

・教員の回答

クラスから要望のあった事項に対して回答した。

・授業改善検討委員会の実施

教員側の生徒に対する要望をもとにしたホーム討議を実施すること、生徒参加の公開授業を実施することを決めた。

・「授業」について生徒へのアンケート

集中できているか、積極的に取り組んでいるかなどの項目で実施。

・ホーム討議

アンケートの集約結果を資料として協議させる。

・公開授業

1年生各ホームで公開授業を実施した。

ホーム討議では、多くのホームでまじめな論議がされ、生徒たちが自ら授業を振り返る機会になった。また、公開授業の後、高知大学、高知工科大学から3名の教授を助言者としてむかえたパネルディスカッションを行った。パネラーである生徒代表の発言は、白熱した論議となった。

③2004年度の取り組み

「授業が変われば学校が変わる」をキーワードとして、「公開授業」を積極的に取り入れること、ホーム討議・教科会を充実させることを目標とした。

1学期



パネルディスカッション

・PTA総会授業参観

約150名の保護者が参加した。

・中高連絡協議会での授業公開

約60名の中学校教員が参加した。

・開かれた学校づくり推進委員授業参観

推進委員，教育委員会指導主事，生徒代表，全教職員の合計150名が参加した。

2学期

・外部講師によるモデル授業

ジェニーいとう氏による授業を行った。

・全教職員による公開授業

61名の教諭が公開授業を行った。

・公開授業に関する討論会

全教職員と生徒代表が参加し，外部のコーディネーターに進行をお願いした。

モデル授業は土木科2年生の教室で行い，体育館へ同時中継をして全校生徒が参観した。授業は，想像工学「イマジニアリング」と題し，ものまねバラエティタレントらしく生徒をひきつけながら，魅力のある授業であった。

公開授業に関する討論会では，教職員と生徒代表の110名が参加し，コーディネーターとして筒井典子氏（人・みらい研究所）に進行をお願いした。各班に分かれて授業への要望やアイデアを模造紙にまとめて発表をした。教員からは「教室は舞台で教員はエンターテイナー，その素地を身につけるため吉本



ジェニーいとう氏による公開授業



公開授業に関する討論会

興業で研修を」といったアイデアが出された。生徒からは「もっと褒めて」、「板書を丁寧に」などの要望があった。思いを十分に言うことができて良かったとの声があり、次につながる討論会であった。

4. ものづくり教育の推進

ものづくり教育を推進することを目的として、平成16年度より技術支援部を校務分掌のひとつとして新設した。その内容は、主に各種資格試験・集計、標準テストや各種検定の窓口と集計等、工業所有・特許関係、技能審査、ジュニアマイスター顕彰制度の推進、各種技術大会関係の支援などである。

ジュニアマイスター顕彰制度においては、平成15年度はゴールド8名、シルバー18名、平成16年度はゴールド13名、シルバー21名が認定されている。

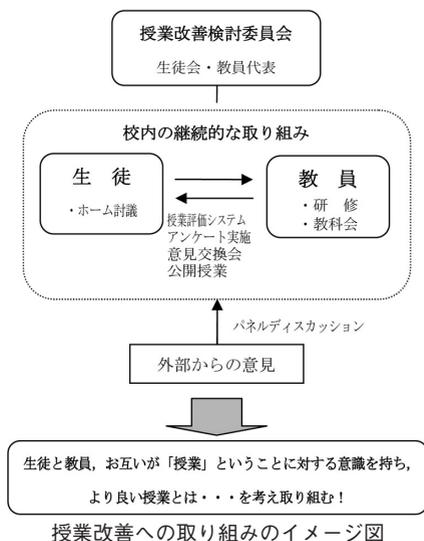
高校生ものづくりコンテスト全国大会も、平成16年度は橋梁模型製作部門で準優勝、平成17年度も化学分析部門、木材加工部門に出場した。

5. 「目指せスペシャリスト」

文部科学省の指定事業である「目指せスペシャリスト」に平成15年、本校の「三次元CADを使いこなす宮大工の育成」が指定された。その特徴は、次のとおりである。

①重要文化財とのかかわり

奈良研修、豊楽寺薬師堂、立川番所書院などの見学を始め、多くの方を講師として講演



会を開催した。

②地域との連携

土佐人材養成センターと連携して技能実習や、土佐瓦、土佐漆喰、土佐和紙などの工場等を見学した。

③規矩術の研究

Excelや3次元CADなどを使い、日本古来の大工術を研究している。

④近隣施設への調査・設計・建築

県内各所に点在するほらの修復、関川家トイレの補修、盲学校への机・いすの製作などである。

6. 終わりに

工業高校が地域へ「ものづくり」を発信し、そして学校評価の中から始まった授業改善。「ものづくり教育」の重要性が言われる中で、その技術・技能の基となる知識を習得させる「授業」について、生徒とともにその重要性を再認識できる内容である。そこからさらに、「ものづくり」へと発展させていく成果をまた別の機会に紹介できれば幸いである。